

## 免許・資格

- スポーツ指導者資格の取得
- 健康運動指導士資格の取得
- 健康運動実践指導者資格の取得
- レクリエーション指導者資格の取得
- NSCA-CPT、CSCS資格の取得
- JPSUスポーツトレーナー資格の取得
- 障害者スポーツ指導員資格の取得
- キャンプ指導者資格の取得
- 体育施設管理士資格の取得
- 社会調査士資格の取得
- NR・サプリメントアドバイザー資格の取得
- 社会教育主事任用資格の取得
- 社会福祉主事任用資格の取得
- 幼児体育指導員資格の取得

免許・資格と必要授業科目の対応表（平成31年度入学生）「19番代」が仙台大学ホームページの“取得資格について”にあります。QRコードは下です（読み取りに必要なソフトなどは、各自、注意事項に従って利用して下さい）。

なお、資格科目対応表は履修登録の参考になるように作成したもので、あくまで学生便覧の記載内容が正しいです。万が一、表に誤り等があった場合には、キャリアアセンター（事務担当・事業戦略室）まで連絡下さい。

体育学科(平成31年度入学生)「19番代」

スポーツ情報マスメディア学科(平成31年度入学生)「19番代」



健康福祉学科(平成31年度入学生)「19番代」

現代武道学科(平成31年度入学生)「19番代」



運動栄養学科(平成31年度入学生)「19番代」

子ども運動教育学科(平成31年度入学生)「19番代」





## 免許・資格

### スポーツ指導者資格の取得

国民スポーツ振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上をはかり、指導活動の促進と指導体制を確立するため、公益財団法人日本スポーツ協会が加盟団体と一体となって育成する「(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度」が制定されている。

その種類と役割は下記のとおりであるが、これは日本体育協会や都道府県体育協会、また各種スポーツ団体が開催する養成講習会に参加して資格を得るものである。

この講習会のカリキュラムは共通科目と専門科目とからなるが、本学を卒業することにより共通科目のⅠ・Ⅱ・Ⅲの講習・試験が免除となり、また指定科目を修得することにより専門科目の講習(特定の資格に限定される)が免除される。ただし、スポーツリーダーについては、本学を卒業することにより資格を取得することが可能である。

本学において、卒業に必要な単位を修得したほか、下記に掲げる本学開講該当科目の単位を修得した者には、(公財)日本スポーツ協会認定のスポーツ指導者資格が与えられる。

スポーツ指導者に関する詳略は、日本スポーツ協会ホームページ (<http://www.japan-sports.or.jp>) を参照すること。

#### ◎スポーツ指導者の分類と役割

	資格名	役割	カリキュラム
基礎資格	スポーツリーダー	・地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。	35h
競技別指導者資格	指導員	・地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門的知識を活かし、個々人の年齢や性別等の対象に合わせた指導にあたる。 ・特に発育発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導にあたる。 ・地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。 ・施設開放において利用者の指導支援を行う。	共通Ⅰ：35h 専門：40h以上
	上級指導員	・地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。 ・事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割を担う。 ・地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。 ・広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にあたる。	共通Ⅰ＋Ⅱ：70h 専門：20h以上
	コーチ	・地域において、競技者育成のための指導にあたる。 ・広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる。 ・広域スポーツセンターが実施する地域スポーツクラブの巡回指導に協力し、より高いレベルの実技指導を行う。	共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ：152.5h 専門：60h以上
	上級コーチ	・ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。 ・国際大会等の各競技会における監督・コーチとして、競技者が最高の能力を発揮できるよう、強化スタッフとして組織的な指導にあたる。	共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ：192.5h 専門：40h以上

	資格名	役割	カリキュラム
競技別指導者資格	教師	・商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として、質の高い実技指導を行う。	共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ：152.5h 専門：80h
	上級教師	・商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者としての質の高い実技指導を行う。 ・会員（顧客）が満足できるように、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。 ・各種事業に関する計画の立案、指導方針の決定など組織内指導者の中心的役割を担う。 ・地域スポーツ経営のためのコンサルティングならびに経営受託の企画・調整を行う。	共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ：192.5h 専門：60h
系資格 フィットネス	ジュニアスポーツ指導員	・地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う。	共通Ⅰ：35h 専門：40h
	スポーツプログラマー	・主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。	共通Ⅰ＋Ⅱ：70h 専門：63h
メディカル・コンディショニング資格	スポーツドクター	・スポーツマンの健康管理、スポーツ障害、スポーツ外傷の診断、治療、予防研究等にあたる。 ・協議会等における医事運営ならびにチームドクターとしてのサポートにあたる。 ・スポーツ医学の研究、教育、普及活動等とおして、スポーツ活動を医学的な立場からサポートする。	基礎：21単位（24.5h） 応用：20単位（30h）
	アスレティックトレーナー	・スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の応急処置、アスレティックリハビリテーション及び体カトレーニング、コンディショニング等にあたる。	共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ：152.5h 専門：600h
マネジメント指導者資格	アシスタントマネジャー	・総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントの諸活動をサポートする。	共通Ⅰ：35h 専門：35h
	クラブマネジャー	・総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブの経営資源を有効に活用し、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なマネジメントを行う。 総合型の地域スポーツクラブの運営が円滑に行われるために必要なスタッフがそれぞれの役割に専念できるような環境を整備する。	共通Ⅰ：35h 専門：167.5h

<体育学科>

●ジュニアスポーツ指導員（専門科目）

講 習 科 目		本学開講該当科目
基 礎	ジュニア期のスポーツの考え方	スポーツ社会学又はスポーツ心理学、特別講習
	ジュニアスポーツ指導員の役割	特別講習
	子どもの発達とコミュニケーションスキル	スポーツコーチング概論
乳 幼 児 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ指導の基礎（含実習）</li> <li>・体操（含体づくり運動）、器械運動、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、ダンスⅠ、バドミントン、新体操、エアロビックダンスから1種目以上選択</li> </ul>
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 前 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技、サッカー、ラグビー、テニス、ソフトボールから1種目以上選択</li> </ul>
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 後 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳、スキーⅠ、スケートから1種目以上選択</li> <li>・レクリエーション実技Ⅰ</li> </ul>
	スポーツスキル獲得の実際	
青 年 前 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習Ⅳ（中学校保健体育）又は</li> <li>・スポーツマネジメント実習</li> </ul>
	スポーツスキル獲得の実際	
指 導 実 習	指導実習	

注 専門科目の検定試験での合格が必要。特別講習は検定試験前に実施。

●スポーツプログラマー（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目
運動と健康	スポーツ指導の基礎（含実習）
フィットネス・エクササイズの理論と実際	トレーニングの基礎、体操（含体づくり運動）、水泳、陸上競技、ダンスⅠ又はエアロビックダンス、レクリエーション実技Ⅰ
フィットネス・エクササイズと健康管理	運動障害救急法（含実習）、運動生理学
体力測定と評価	スポーツ計量学
フィットネスプログラムの実際	体力相談と運動処方
スポーツ相談の実際	スポーツ心理学

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

●アスレティックトレーナー（専門科目及び現場実習）

講 習 科 目	本学開講該当科目
アスレティックトレーナーの役割	アスレティックトレーニング演習
スポーツ科学	トレーニング方法論、スポーツバイオメカニクス、運動生理学、スポーツ心理学
運動器の解剖と機能	アスレティックトレーニング論Ⅰ、アスレティックトレーニング論Ⅱ
スポーツ外傷・障害の基礎知識	スポーツ医学概論、スポーツ医学A
健康管理とスポーツ医学	スポーツ医学B
検査・測定と評価	スポーツ障害の予防と評価、スポーツトレーナー演習
予防とコンディショニング	コンディショニング論、コンディショニング実習、スポーツトレーナー実習
アスレティックリハビリテーション	アスレティックリハビリテーション論、アスレティックリハビリテーション実習、アスレティックリハビリテーション演習
救急処置	運動障害救急法（含実習）
スポーツと食事	スポーツ栄養学

- ・専門科目の検定試験での合格が必要。
- ・検定試験を受験する場合は、上記の科目以外に日本赤十字救急法救急員の取得が必要。
- ・検定試験（実技試験）を受験する場合は、検定試験までに180時間以上の現場実習が必要。
- ・アスレティックトレーナーインターンシップ実習Ⅰ～Ⅵは、資格取得のための推奨科目とする（体育学科のみ履修可。単位を取得していない場合でも修了証明書の発行は可能）
- ・詳細については、受験資格取得希望者を対象としたオリエンテーション内で説明するため、掲示等の指示に注意すること。

●アシスタントマネジャー（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目	
地域スポーツクラブとは 地域スポーツクラブの現状 クラブマネジャーの役割 クラブのつくり方 クラブの運営	次の表のA、Bからそれぞれ1科目以上（計4単位以上） 取得する	
	A	B
	地域スポーツ戦略論	スポーツ社会学 スポーツ経営学

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

●水泳指導員（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目
学科	種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、水上安全法（含実習）、 スポーツコーチング実習（渡邊泰クラス）
実技	水泳

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

●水泳コーチ（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目
学科	種目別コーチング演習Ⅰ（水泳）、種目別コーチング演習 Ⅱ（水泳）、水上安全法（含実習）、スポーツコーチング 実習（渡邊泰クラス）
実技	水泳

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

※平成26年度以前（14番代以前）の入学生については本資格の対象外となる。

<健康福祉学科>

●ジュニアスポーツ指導員（専門科目）

講 習 科 目		本学開講該当科目
基 礎	ジュニア期のスポーツの考え方	スポーツ社会学又はスポーツ心理学、特別講習
	ジュニアスポーツ指導員の役割	特別講習
	子どもの発達とコミュニケーションスキル	スポーツ指導の基礎（含実習）
乳 幼 児 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康運動指導実技</li> <li>・体操（含体づくり運動）、器械運動、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、ダンスⅠ、バドミントン、新体操、エアロビックダンスから1種目以上選択</li> </ul>
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 前 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技、サッカー、ラグビー、テニス、ソフトボールから1種目以上選択</li> </ul>
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 後 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳、スキーⅠ、スケートから1種目以上選択</li> <li>・レクリエーション実技Ⅰ</li> </ul>
	スポーツスキル獲得の実際	
青 年 前 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習Ⅳ（中学校保健体育）又はスポーツマネジメント実習</li> </ul>
	スポーツスキル獲得の実際	
指 導 実 習	指導実習	

注1 専門科目の検定試験での合格が必要。特別講習は検定試験前に実施

注2 本学開講該当科目の\_\_\_の科目は、体育学科開講の「自由科目」である。

●スポーツプログラマー（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目
運動と健康	スポーツ指導の基礎（含実習）
フィットネス・エクササイズの理論と実際	健康運動指導実技、体操（含体づくり運動）、水泳、陸上競技、ダンスⅠ又はエアロビックダンス、レクリエーション実技Ⅰ
フィットネス・エクササイズと健康管理	運動障害救急法（含実習）、運動生理学
体力測定と評価	スポーツ計量学
フィットネスプログラムの実際	体力相談と運動処方
スポーツ相談の実際	スポーツ心理学

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

●アシスタントマネジャー（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目	
地域スポーツクラブとは 地域スポーツクラブの現状 クラブマネジャーの役割 クラブのつくり方 クラブの運営	次の表のA、Bからそれぞれ1科目以上（計4単位以上）取得する	
	A	B
	地域スポーツ戦略論	スポーツ社会学 スポーツ経営学

注1 専門科目の検定試験での合格が必要。

注2 本学開講該当科目の\_\_\_の科目は、体育学科開講の「自由科目」である。



<運動栄養学科>

●ジュニアスポーツ指導員（専門科目）

講 習 科 目		本学開講該当科目
基 礎	ジュニア期のスポーツの考え方	スポーツ社会学又はスポーツ心理学、特別講習
	ジュニアスポーツ指導員の役割	特別講習
	子どもの発達とコミュニケーションスキル	スポーツ指導の基礎（含実習）
乳 幼 児 期	動きの発達とスキルの獲得	・身体運動と発育・発達 ・体操（含体づくり運動）、器械運動、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、ダンスⅠ、バドミントン、新体操、エアロビックダンスから1種目以上選択
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 前 期	動きの発達とスキルの獲得	・陸上競技、サッカー、ラグビー、テニス、ソフトボールから1種目以上選択
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 後 期	動きの発達とスキルの獲得	・水泳、スキーⅠ、スケートから1種目以上選択 ・レクリエーション実技Ⅰ
	スポーツスキル獲得の実際	
青 年 前 期	動きの発達とスキルの獲得	・教育実習Ⅳ（中学校保健体育）又は スポーツマネジメント実習
	スポーツスキル獲得の実際	
指 導 実 習	指導実習	

注1 専門科目の検定試験での合格が必要。特別講習は検定試験前に実施

注2 本学開講該当科目の\_\_\_の科目は、体育学科開講の「自由科目」である。

●スポーツプログラマー（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目
運動と健康	スポーツ指導の基礎（含実習）
フィットネス・エクササイズの理論と実際	トレーニングの基礎、体操（含体づくり運動）、水泳、陸上競技、ダンスⅠ又はエアロビックダンス、レクリエーション実技Ⅰ
フィットネス・エクササイズと健康管理	運動障害救急法（含実習）、運動生理学
体力測定と評価	スポーツ計量学
フィットネスプログラムの実際	体力相談と運動処方
スポーツ相談の実際	スポーツ心理学

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

●アスレティックトレーナー（専門科目及び現場実習）

講 習 科 目	本学開講該当科目
アスレティックトレーナーの役割	アスレティックトレーニング演習
スポーツ科学	トレーニング方法論、スポーツバイオメカニクス、運動生理学、スポーツ心理学
運動器の解剖と機能	アスレティックトレーニング論Ⅰ、アスレティックトレーニング論Ⅱ
スポーツ外傷・障害の基礎知識	スポーツ医学概論、スポーツ医学A
健康管理とスポーツ医学	スポーツ医学B
検査・測定と評価	スポーツ障害の予防と評価、スポーツトレーナー演習
予防とコンディショニング	コンディショニング論、コンディショニング実習、スポーツトレーナー実習
アスレティックリハビリテーション	アスレティックリハビリテーション論、アスレティックリハビリテーション実習、アスレティックリハビリテーション演習
救急処置	運動障害救急法（含実習）
スポーツと食事	スポーツ栄養学

・専門科目の検定試験での合格が必要。

・検定試験を受験する場合は、上記の科目以外に日本赤十字救急法救急員の取得が必要。

・検定試験（実技試験）を受験する場合は、検定試験までに180時間以上の現場実習が必要。

・詳細については、受験資格取得希望者を対象としたオリエンテーション内で説明するため、掲示等の指示に注意すること。

・本学開講該当科目の\_\_\_の科目は、体育学科開講の「自由科目」である。



●アシスタントマネジャー（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目	
地域スポーツクラブとは 地域スポーツクラブの現状 クラブマネジャーの役割 クラブのつくり方 クラブの運営	次の表のA、Bからそれぞれ1科目以上（計4単位以上） 取得する	
	A	B
	地域スポーツ戦略論	スポーツ社会学 スポーツ経営学

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

<現代武道学科>

●ジュニアスポーツ指導員（専門科目）

講 習 科 目		本学開講該当科目
基 礎	ジュニア期のスポーツの考え方	スポーツ社会学又はスポーツ心理学、特別講習
	ジュニアスポーツ指導員の役割	特別講習
	子どもの発達とコミュニケーションスキル	スポーツコーチング概論
乳幼児期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ指導の基礎（含実習）</li> <li>・体操（含体づくり運動）、器械運動、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、ダンスⅠ、バドミントン、新体操、エアロビックダンスから1種目以上選択</li> <li>・陸上競技、サッカー、ラグビー、テニス、ソフトボールから1種目以上選択</li> <li>・水泳、スキーⅠ、スケートから1種目以上選択</li> <li>・レクリエーション実技Ⅰ</li> </ul>
	運動あそび・ゲームの実際	
児童前期	動きの発達とスキルの獲得	
	運動あそび・ゲームの実際	
児童後期	動きの発達とスキルの獲得	
	スポーツスキル獲得の実際	
青年前期	動きの発達とスキルの獲得	
	スポーツスキル獲得の実際	
指導実習	指導実習	・教育実習Ⅳ（中学校保健体育）

注 専門科目の検定試験での合格が必要。特別講習は検定試験前に実施。

●スポーツプログラマー（専門科目）

講 習 科 目	本学開講該当科目
運動と健康	スポーツ指導の基礎（含実習）
フィットネス・エクササイズの理論と実際	トレーニングの基礎、体操（含体づくり運動）、水泳、陸上競技、ダンスⅠ又はエアロビックダンス、レクリエーション実技Ⅰ
フィットネス・エクササイズと健康管理	運動障害救急法（含実習）、運動生理学
体力測定と評価	スポーツ計量学
フィットネスプログラムの実際	体力相談と運動処方
スポーツ相談の実際	スポーツ心理学

注 専門科目の検定試験での合格が必要。

<子ども運動教育学科>

●ジュニアスポーツ指導員（専門科目）

講 習 科 目		本学開講該当科目
基 礎	ジュニア期のスポーツの考え方	スポーツ社会学又はスポーツ心理学、特別講習
	ジュニアスポーツ指導員の役割	特別講習
	子どもの発達とコミュニケーションスキル	スポーツコーチング概論
乳 幼 児 期	動きの発達とスキルの獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ指導の基礎（含実習）</li> <li>・体操（含体づくり運動）、器械運動、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、ダンスⅠ、バドミントン、新体操、エアロビックダンスから1種目以上選択</li> <li>・陸上競技、サッカー、ラグビー、テニス、ソフトボールから1種目以上選択</li> <li>・水泳、スキーⅠ、スケートから1種目以上選択</li> <li>・レクリエーション実技Ⅰ</li> <li>・スポーツマネジメント実習</li> </ul>
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 前 期	動きの発達とスキルの獲得	
	運動あそび・ゲームの実際	
児 童 後 期	動きの発達とスキルの獲得	
	スポーツスキル獲得の実際	
青 年 前 期	動きの発達とスキルの獲得	
	スポーツスキル獲得の実際	
指 導 実 習	指導実習	

注1 専門科目の検定試験での合格が必要。特別講習は検定試験前に実施。

注2 興味のある学年は学内担当（鈴木良太 A棟412）まで。

●修了証明書発行に関わる発行料

免除希望者は、申請時に下記の発行料を別途徴収する。

資 格	発 行 料	備 考
共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（共通）	10,800円	スポーツリーダー認定証が発行される
スポーツプログラマー（専門）	6,480円	共通科目も合わせて申請すること
ジュニアスポーツ指導員（専門）	3,240円	共通科目も合わせて申請すること
アシスタントマネジャー（専門）	3,240円	共通科目も合わせて申請すること
アスレティックトレーナー（専門）	10,800円	共通科目も合わせて申請すること
水泳指導員（専門）	3,240円	共通科目も合わせて申請すること

注1 卒業後の申請は出来ないで、必ず卒業時に申請すること。

注2 アスレティックトレーナーは、現場実習を修了していなくても修了証明書の発行が可能である。

## 健康運動指導士資格の取得

「健康運動指導士」とは、個々人の心身の状態に合わせた安全で効果的な運動を実施するために、保健医療関係者と連携しつつ運動プログラムの作成及び指導を行う者です。健康運動指導士養成事業は昭和63年から厚生大臣の認定事業として開始され、平成18年度からは公益財団法人健康・体力づくり事業財団の事業として継続されています。

「健康運動指導士」の資格取得について、本学の体育学科、健康福祉学科及び運動栄養学科は、健康運動指導士養成校として平成19年4月に認定を受けているので、別表の各学科の定めるカリキュラムの本学開講科目を履修し在学中に単位を修得した者は、講習会が免除され認定試験の受験資格が得られる。認定試験は4年次の9月、11月及び3月に受験可能であり、また、受験資格は卒業後おおむね4年間保持される。

健康運動指導士は、健康増進センター、フィットネスクラブ、健診会社（メタボリックシンドローム健診事後運動指導等）、病院（生活習慣病運動療法等）、介護老人保健施設等で活躍している。

注) 健康運動指導士資格認定試験を受験する者は、必ず、「健康運動指導士養成講習会テキスト」を4年次の教科書販売期間に教育企画室に料金16,500円を添えて、購入申し込みをすること（市販されていない。テキストが届いたら教育企画室で配布する）。尚、受験から登録までの経費として認定試験受験料約15,000円、合格者登録手数料約24,000円（5年間有効）が必要となる。

（参考）在学中に受験申込をしなかった場合の卒業後の受験資格について。[健康・体力づくり事業財団ホームページ「健康ネット」<http://www.health-net.or.jp/>「健康運動指導士認定試験のご案内」より要点。]

- ・本校において養成講座を修了し、かつ、卒業後4年以内の者。
- ・本校において養成講座を未修了で卒業後、科目等履修生として本校で未修了科目の単位を修得した者（ただし、未修了科目の合計単位が本校の定める単位で4単位以内、かつ、卒業後4年以内）。

なお、卒業後は、上記ホームページや財団への問い合わせにより最新情報等を確認すること。

体育学科カリキュラム<sup>1)</sup> (19番代)

養成講習会科目		本学開講該当科目
1	健康管理概論	衛生・公衆衛生学
2	健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学
3	生活習慣病 (NCD)	スポーツ医学B、衛生・公衆衛生学
4	運動生理学	運動生理学、衛生・公衆衛生学
5	機能解剖とバイオメカニクス	スポーツバイオメカニクス
6	健康づくり運動の理論	トレーニング方法論、障害者とスポーツ、発育発達と老化
7	運動障害と予防	スポーツ医学概論、スポーツ医学A
8	体力測定と評価	スポーツトレーナー演習、スポーツトレーナー実習
9	健康づくり運動の実際	体操(含体づくり運動)、エアロビックダンス、水泳、トレーニングの基礎、健康づくり事業(集中講座) <sup>2)</sup>
10	救急処置	運動障害救急法(含実習)
11	運動プログラムの実際	体力相談と運動処方、スポーツ医学B、ストレングス&コンディショニング実習
12	運動負荷試験	ストレングス&コンディショニング実習
13	運動行動変容の理論と実際	スポーツ心理学
14	運動とこころの健康増進	スポーツ心理学、衛生・公衆衛生学
15	栄養摂取と運動	スポーツ栄養学、スポーツトレーナー実習

- 注 1) 原則として、スポーツトレーナー・コース(フィットネストレーナー系)に所属する学生とする。  
 2) 健康づくり運動現場実習(集中)は、現在のところ、本学の「健康づくり運動サポーター\*初級」を取得することで修了となる。受験希望者は掲示板等によく注意し、不明な点は本資格担当者にお問い合わせのこと。  
 \*：健康づくり運動サポーターとは、本学独自の取り組みであり、地域の健康づくりに貢献できる人材を養成するプログラムに参加することで付与される。

体育学科カリキュラム<sup>1)</sup> (16・17・18番代)

養成講習会科目		本学開講該当科目
1	健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学
2	健康管理概論	衛生・公衆衛生学
3	生活習慣病(成人病)	スポーツ医学B、スポーツ医学A
4	運動生理学	運動生理学
5	機能解剖とバイオメカニクス(運動・動作の力源)	解剖・生理学、スポーツバイオメカニクス
6	健康づくり運動の理論	体力相談と運動処方、障害者とスポーツ、発育発達と老化
7	運動障害と予防	運動障害救急法(含実習)
8	体力測定と評価	スポーツトレーナー実習
9	健康づくり運動の実際	体操(含体づくり運動)、トレーニングの基礎、エアロビックダンス、水泳、健康づくり運動現場実習(集中) <sup>2)</sup>
10	救急処置	運動障害救急法(含実習)
11	運動プログラムの管理	スポーツ医学B、スポーツ医学概論、体力相談と運動処方
12	運動負荷試験	スポーツ医学概論、ストレングス&コンディショニング実習
13	運動行動変容の理論と実際	スポーツ心理学
14	運動と心の健康増進	スポーツ心理学
15	栄養摂取と運動	スポーツ栄養学、スポーツトレーナー実習

- 注 1) 原則として、スポーツトレーナー・コース(フィットネストレーナー系)に所属する学生とする。  
 2) 健康づくり運動現場実習(集中)は、現在のところ、本学の「健康づくり運動サポーター\*初級」を取得することで修了となる。受験希望者は掲示板等によく注意し、不明な点は本資格担当者にお問い合わせのこと。  
 \*：健康づくり運動サポーターとは、本学独自の取り組みであり、地域の健康づくりに貢献できる人材を養成するプログラムに参加することで付与される。

健康福祉学科カリキュラム（19番代）

養成講習会科目		本学開講該当科目
1	健康管理概論	衛生・公衆衛生学
2	健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学
3	生活習慣病（NCD）	スポーツ医学B、衛生・公衆衛生学
4	運動生理学	運動生理学、衛生・公衆衛生学
5	機能解剖とバイオメカニクス	スポーツバイオメカニクス
6	健康づくり運動の理論	トレーニング方法論、障害者とスポーツ、発育発達と老化
7	運動障害と予防	スポーツ医学概論、スポーツ医学A
8	体力測定と評価	健康支援・介護予防演習、健康づくり運動演習
9	健康づくり運動の実際	体操（含体づくり運動）、エアロビックダンス、水泳、健康運動指導実技、健康づくり事業（集中講座） <sup>※1</sup>
10	救急処置	運動障害救急法（含実習）
11	運動プログラムの実際	体力相談と運動処方、スポーツ医学B、健康支援・介護予防演習
12	運動負荷試験	健康支援・介護予防演習
13	運動行動変容の理論と実際	スポーツ心理学
14	運動とこころの健康増進	スポーツ心理学、衛生・公衆衛生学
15	栄養摂取と運動	栄養学概論、健康支援・介護予防演習

※1 健康づくり運動現場実習（集中）は、現在のところ、本学の「健康づくり運動サポーター\*初級」を取得することで修了となる。受験希望者は掲示板等によく注意し、不明な点は本資格担当者に問い合わせること。

\*：健康づくり運動サポーターとは、本学独自の取り組みであり、地域の健康づくりに貢献できる人材を養成するプログラムに参加することで付与される。

健康福祉学科カリキュラム（16・17・18番代）

養成講習会科目		本学開講該当科目
1	健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学
2	健康管理概論	衛生・公衆衛生学
3	生活習慣病（成人病）	スポーツ医学B、スポーツ医学A
4	運動生理学	運動生理学
5	機能解剖とバイオメカニクス（運動・動作の力源）	医学一般、スポーツバイオメカニクス
6	健康づくり運動の理論	体力相談と運動処方、障害者とスポーツ、スポーツ医学A
7	運動障害と予防	運動障害救急法（含実習）
8	体力測定と評価	健康づくり運動演習、健康支援・介護予防演習
9	健康づくり運動の実際	体操（含体づくり運動）、健康運動指導実技、エアロビックダンス、水泳、健康づくり運動現場実習（集中） <sup>※1</sup>
10	救急処置	運動障害救急法（含実習）
11	運動プログラムの管理	スポーツ医学概論、体力相談と運動処方、健康支援・介護予防演習
12	運動負荷試験	スポーツ医学概論、健康支援・介護予防演習
13	運動行動変容の理論と実際	スポーツ心理学
14	運動と心の健康増進	スポーツ心理学
15	栄養摂取と運動	栄養学概論、健康支援・介護予防演習

※1 健康づくり運動現場実習（集中）は、現在のところ、本学の「健康づくり運動サポーター\*初級」を取得することで修了となる。受験希望者は掲示板等によく注意し、不明な点は本資格担当者に問い合わせること。

\*：健康づくり運動サポーターとは、本学独自の取り組みであり、地域の健康づくりに貢献できる人材を養成するプログラムに参加することで付与される。

運動栄養学科カリキュラム（19番代）

養成講習会科目		本学開講該当科目
1	健康管理概論	衛生・公衆衛生学
2	健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学
3	生活習慣病（NCD）	スポーツ医学B、衛生・公衆衛生学
4	運動生理学	運動生理学、衛生・公衆衛生学
5	機能解剖とバイオメカニクス	スポーツバイオメカニクス
6	健康づくり運動の理論	トレーニング方法論、障害者とスポーツ、身体運動と発育・発達
7	運動障害と予防	スポーツ医学概論、スポーツ医学A
8	体力測定と評価	運動指導演習
9	健康づくり運動の実際	体操（含体づくり運動）、エアロビックダンス、水泳、トレーニングの基礎、健康づくり事業（集中講座）※1
10	救急処置	運動障害救急法（含実習）
11	運動プログラムの実際	体力相談と運動処方、スポーツ医学B、運動指導演習
12	運動負荷試験	健康支援・介護予防演習
13	運動行動変容の理論と実際	スポーツ心理学
14	運動とこころの健康増進	スポーツ心理学、衛生・公衆衛生学
15	栄養摂取と運動	栄養学、栄養学実習、栄養学指導論

※1 健康づくり運動現場実習（集中）は、現在のところ、本学の「健康づくり運動サポーター\*初級」を取得することで修了となる。受験希望者は掲示板等によく注意し、不明な点は本資格担当者に問い合わせること。

\*：健康づくり運動サポーターとは、本学独自の取り組みであり、地域の健康づくりに貢献できる人材を養成するプログラムに参加することで付与される。

運動栄養学科カリキュラム（16・17・18番代）

養成講習会科目		本学開講該当科目
1	健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学
2	健康管理概論	衛生・公衆衛生学
3	生活習慣病（成人病）	スポーツ医学B、スポーツ医学A
4	運動生理学	運動生理学
5	機能解剖とバイオメカニクス（運動・動作の力源）	解剖・生理学I、スポーツバイオメカニクス
6	健康づくり運動の理論	体力相談と運動処方、障害者とスポーツ、身体運動と発育・発達
7	運動障害と予防	運動障害救急法（含実習）
8	体力測定と評価	運動指導演習
9	健康づくり運動の実際	体操（含体づくり運動）、トレーニングの基礎、エアロビックダンス、水泳、健康づくり運動現場実習（集中）※1
10	救急処置	運動障害救急法（含実習）
11	運動プログラムの管理	スポーツ医学B、スポーツ医学概論、体力相談と運動処方
12	運動負荷試験	スポーツ医学概論、運動指導演習※1
13	運動行動変容の理論と実際	スポーツ心理学
14	運動と心の健康増進	スポーツ心理学
15	栄養摂取と運動	栄養学、運動指導演習

※1 健康づくり運動現場実習（集中）は、現在のところ、本学の「健康づくり運動サポーター\*初級」を取得することで修了となる。受験希望者は掲示板等によく注意し、不明な点は本資格担当者に問い合わせること。

\*：健康づくり運動サポーターとは、本学独自の取り組みであり、地域の健康づくりに貢献できる人材を養成するプログラムに参加することで付与される。



# 健康運動実践指導者資格の取得

## 1. 健康運動実践指導者

「健康運動実践指導者」とは、健康づくりのための運動指導者に与えられる称号の一つで、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックダンス、水泳及び水中運動等のエアロビックエクササイズ、ストレッチング、筋力・持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことができると認められた人材に、公益財団法人健康・体力づくり事業財団より与えられる。

「健康運動実践指導者」の資格取得については、本学の体育学科、健康福祉学科および運動栄養学科は健康運動実践指導者養成校の認定を受けているので、各学科別表の科目の単位を取得した者は、講習会が免除されて、3年次後期または4年次後期の資格認定試験の受験資格が得られる。毎年夏に受験申込みをするので、前期までに表の全科目の単位を取得しなければならない。また在学中に受験申込みをしなければ受験できない。

注) 健康運動実践指導者資格認定試験を受験する者は、必ず、「健康運動実践指導者養成用テキスト(新版)」を3年次の教科書販売期間に教育企画室に料金4,900円を添えて、購入申し込みをすること(市販されていない。テキストが届いたら教育企画室で配布する)。

## 資格認定試験

「健康運動実践指導者」の資格認定試験は、(財)健康・体づくり事業財団が実施し、(1)実技評価と(2)筆記試験がある(受験料約2万5千円)。

### (1) 実技評価(指導技能の審査)

- 1) 陸上運動(エアロビックダンスとレジスタンスエクササイズ)
- 2) 水中運動(水中ウォーキングと水中レジスタンスエクササイズ)

### (2) 筆記試験

養成講座カリキュラムの内容について「五指択一方式」の試験

資格認定試験の合格者には、「健康運動実践指導者」の登録資格が与えられる。(登録料約2万5千円)

進路として、健康増進センター、フィットネスクラブ、市町村の保健センターにおける運動指導者などがあり、最近では病院、介護老人保健施設等での活躍も目立っている。

## 体育学科(19番代)

指導資格の種別	講習科目	本学開講該当科目
健康運動実践指導者	1 健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学、スポーツ医学概論
	2 運動生理学	運動生理学
	3 機能的解剖とバイオメカニクス	解剖・生理学、スポーツバイオメカニクス
	4 栄養摂取と運動	スポーツ栄養学
	5 体力測定と評価	スポーツトレーナー実習または集中講座※ スポーツ計量学
	6 健康づくりと運動プログラム	体力相談と運動処方
	7 運動指導の心理学的基礎	スポーツ心理学
	8 健康づくり運動の実際	エアロビックダンス、水泳、 体操(含体づくり運動)、ストレングス& コンディショニング実習
	9 運動障害と予防・救急処置	運動障害救急法(含実習)、スポーツ医学概論

※ 集中講座は栄養・健康・体力自己管理システムの体力測定の際に実施する。

### 体育学科（16・17・18番代）

指導資格の種別	講 習 科 目	本学開講該当科目
健康運動実践指導者	1 健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学、スポーツ医学概論
	2 運動生理学	運動生理学
	3 機能的解剖とバイオメカニクス	解剖・生理学、スポーツバイオメカニクス
	4 栄養摂取と運動	スポーツ栄養学
	5 体力測定と評価	スポーツトレーナー実習または集中講座※ スポーツ計量学
	6 健康づくりと運動プログラム	体力相談と運動処方
	7 運動指導の心理学的基礎	スポーツ心理学
	8 健康づくり運動の実際	トレーニングの基礎、エアロビックダンス、 水泳、体操（含体づくり運動）
	9 運動障害と予防・救急処置	運動障害救急法（含実習）、スポーツ医学 概論

※ 集中講座は栄養・健康・体力自己管理システムの体力測定の際に実施する。

### 健康福祉学科（19番代）

指導資格の種別	講 習 科 目	本学開講該当科目
健康運動実践指導者	1 健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学、スポーツ医学概論
	2 運動生理学	運動生理学
	3 機能的解剖とバイオメカニクス	医学一般、スポーツバイオメカニクス
	4 栄養摂取と運動	栄養学概論
	5 体力測定と評価	健康支援・介護予防演習、健康づくり運動 演習、スポーツ計量学
	6 健康づくりと運動プログラム	体力相談と運動処方
	7 運動指導の心理学的基礎	スポーツ心理学
	8 健康づくり運動の実際	エアロビックダンス、水泳、体操（含体つ くり運動）、コンディショニング論
	9 運動障害と予防・救急処置	運動障害救急法（含実習）、スポーツ医学 概論

### 健康福祉学科（16・17・18番代）

指導資格の種別	講 習 科 目	本学開講該当科目
健康運動実践指導者	1 健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学、スポーツ医学概論
	2 運動生理学	運動生理学
	3 機能的解剖とバイオメカニクス	医学一般、スポーツバイオメカニクス
	4 栄養摂取と運動	栄養学概論
	5 体力測定と評価	健康支援・介護予防演習、健康づくり運動 演習、スポーツ計量学
	6 健康づくりと運動プログラム	体力相談と運動処方
	7 運動指導の心理学的基礎	スポーツ心理学
	8 健康づくり運動の実際	健康運動指導実技、エアロビックダンス、 水泳、体操（含体づくり運動）
	9 運動障害と予防・救急処置	運動障害救急法（含実習）、スポーツ医学 概論

運動栄養学科（19番代）

指導資格の種別	講 習 科 目	本学開講該当科目
健康運動実践指導者	1 健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学、スポーツ医学概論
	2 運動生理学	運動生理学
	3 機能的解剖とバイオメカニクス	解剖・生理学I、スポーツバイオメカニクス
	4 栄養摂取と運動	栄養学
	5 体力測定と評価	運動指導演習、スポーツ計量学
	6 健康づくりと運動プログラム	体力相談と運動処方
	7 運動指導の心理学的基礎	スポーツ心理学
	8 健康づくり運動の実際	エアロビックダンス、水泳、体操（含体づくり運動）、コンディショニング論
	9 運動障害と予防・救急処置	運動障害救急法（含実習）、スポーツ医学概論

運動栄養学科（16・17・18番代）

指導資格の種別	講 習 科 目	本学開講該当科目
健康運動実践指導者	1 健康づくり施策概論	衛生・公衆衛生学、スポーツ医学概論
	2 運動生理学	運動生理学
	3 機能的解剖とバイオメカニクス	解剖・生理学I、スポーツバイオメカニクス
	4 栄養摂取と運動	栄養学
	5 体力測定と評価	運動指導演習、スポーツ計量学
	6 健康づくりと運動プログラム	体力相談と運動処方
	7 運動指導の心理学的基礎	スポーツ心理学
	8 健康づくり運動の実際	トレーニングの基礎、エアロビックダンス、水泳、体操（含体づくり運動）
	9 運動障害と予防・救急処置	運動障害救急法（含実習）、スポーツ医学概論

## レクリエーション指導者資格の取得（体育学科）

### 1. レクリエーション指導者

本学では、「レクリエーション・インストラクター」、「レクリエーション・コーディネーター」、「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格が取得できる。

「レクリエーション・インストラクター」は、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できるレクリエーション指導者の基礎資格である。

そして体育学科では、この「レクリエーション・インストラクター」をより専門的に学習していく上級資格として、「レクリエーション・コーディネーター」の取得もできる。

### 2. 資格取得条件

本学において、下記に掲げる単位を修得した者は、公益財団法人日本レクリエーション協会認定の指導者資格の申請ができる。※在学中の申請も可能です。

(体育学科)

指導資格の種別	講 習 科 目		本学開講該当科目	
○レクリエーション・コーディネーター 学内担当： 仲野（A棟508研究室）	共通科目	1	スポーツ社会学	スポーツ社会学
		2	スポーツ心理学	スポーツ心理学
		3	スポーツ経営学	スポーツ経営学
		4	スポーツ生理学	運動生理学、スポーツバイオメカニクス、トレーニングの基礎、スポーツ栄養学
		5	スポーツ医学	スポーツ医学概論、運動障害救急法（含実習）
		6	スポーツ指導論	スポーツ指導の基礎（含実習）、スポーツコーチング概論又は保健体育科教育論Ⅰ
		7	地域におけるスポーツ行政	スポーツ政策論または地域スポーツ戦略論
	専門科目	1	レクリエーションに関する基礎理論	レジャー・レクリエーション論 レクリエーション支援論 スポーツクラブ・マネジメント論（含む演習）
		2	レクリエーション指導の理論	
		3	レクリエーション組織の経営論	
		4	レクリエーション・サービス論	
	実技科目	1	コミュニケーション・ワークの指導法	レクリエーション実技Ⅰ レクリエーション実技Ⅱ 野外レクリエーション・マネジメント論（含む演習） ニュー・ゲームズ
		2	レクリエーション種目の実技	
		3	プレゼンテーションの実際	
		4	プロモーションの実際	
		5	イベント企画・会議・財務管理の実際	
	実指 習導	1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ
	参事 加業			日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエーション協会が関与する事業に2回以上参加
	○レクリエーション・インストラクター 学内担当： 高崎（F棟216研究室）	1	レクリエーション理論	レジャー・レクリエーション論
2		レクリエーション実技	レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱ	
実指 習導		1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ
参事 加業				日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエーション協会が関与する事業に2回以上参加

注 レクリエーション・コーディネーターは専門科目の筆記試験（本学で実施）での合格が必要。

## レクリエーション指導者資格の取得（健康福祉学科）

### 1. レクリエーション指導者

本学では、「レクリエーション・インストラクター」、「レクリエーション・コーディネーター」、「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格が取得できる。

「レクリエーション・インストラクター」は、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できるレクリエーション指導者の基礎資格である。

そして健康福祉学科では、この「レクリエーション・インストラクター」をより専門的に学習していく上級資格として、「レクリエーション・コーディネーター」、「福祉レクリエーション・ワーカー」の取得もできる。

### 2. 資格取得条件

本学において、下記に掲げる単位を修得した者は、公益財団法人日本レクリエーション協会認定の指導者資格の申請ができる。※在学中の申請も可能です。

指導資格の種別	講 習 科 目		本学開講該当科目		
○福祉レクリエーション・ワーカー 学内担当： 小池（F棟201研究室）	共通科目	1	レクリエーションの理論	レジャー・レクリエーション論	
		2	レクリエーション実技	レクリエーション実技Ⅰ レクリエーション実技Ⅱ コミュニケーション技術演習	
	福祉領域の基礎知識	1	支援対象者の生活の理解	生活文化論 障害の理解 発育発達と老化 認知症の理解Ⅰ こころとからだⅠ	3科目以上選択必修
		2	社会と福祉サービスの理解	健康福祉総論 リハビリテーション論 社会保障論 児童福祉論 地域福祉論 老人福祉論 障害者福祉論	
	総合専門知識・演習	1	福祉レクリエーション支援の理解	介護福祉とレクリエーション活動援助 介護福祉とレクリエーション援助演習 福祉レクリエーション実技 健康づくり運動演習	
		2	福祉レクリエーション支援の計画		
		3	福祉レクリエーション支援の介入技術		
	実習	1	現場実習	介護実習Ⅰ または福祉レクリエーション支援実習	

注 福祉レクリエーション・ワーカーは筆記試験並びに実技試験（本学で実施）での合格が必要。

指導資格の種別	講 習 科 目		本学開講該当科目	
○レクリエーション・ コーディネーター 学内担当： 仲野（A棟508研究室）	共通 科目	1	スポーツ社会学	スポーツ社会学
		2	スポーツ心理学	スポーツ心理学
		3	スポーツ経営学	スポーツ経営学
		4	スポーツ生理学	運動生理学、スポーツバイオメカニクス、 健康運動指導実技、栄養学概論
		5	スポーツ医学	スポーツ医学概論、運動障害救急法（含実習）
		6	スポーツ指導論	スポーツ指導の基礎（含実習）、保健体育科教育論Ⅰ
		7	地域におけるスポーツ 行政	スポーツ政策論または地域スポーツ戦略論
	専門 科目	1	レクリエーションに関 する基礎理論	レジャー・レクリエーション論 または介護福祉とレクリエーション活動援助 レクリエーション支援論 スポーツクラブ・マネジメント論（含む演習）
		2	レクリエーション指導 の理論	
		3	レクリエーション組織 の経営論	
		4	レクリエーション・ サービス論	
	実技 科目	1	コミュニケーション・ ワークの指導法	レクリエーション実技Ⅰ レクリエーション実技Ⅱ 野外・レクリエーション・マネジメント論（含む演習） ニュー・ゲームズ
		2	レクリエーション種目 の実技	
		3	プレゼンテーションの 実際	
		4	プロモーションの実際	
		5	イベント企画・会議・財 務管理の実際	
	実指導	1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、 介護実習Ⅰ、養護実習Ⅱ、福祉レクリエーション支援実習
	参事 加業			日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエ ーション協会が関与する事業に2回以上参加
	○レクリエーション・ インストラクター 学内担当： 高崎（F棟216研究室）		1	レクリエーション理論
		2	レクリエーション実技	レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱ
実指導		1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、 介護実習Ⅰ、養護実習Ⅱ、福祉レクリエーション支援実習
参事 加業				日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエ ーション協会が関与する事業に2回以上参加

注 レクリエーション・コーディネーターは専門科目の筆記試験（本学で実施）での合格が必要。



# レクリエーション指導者資格の取得（運動栄養学科）

## 1. レクリエーション指導者

本学では、「レクリエーション・インストラクター」、「レクリエーション・コーディネーター」、「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格が取得できる。

「レクリエーション・インストラクター」は、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できるレクリエーション指導者の基礎資格である。

そして運動栄養学科では、この「レクリエーション・インストラクター」をより専門的に学習していく上級資格として、「レクリエーション・コーディネーター」の取得もできる。

## 2. 資格取得条件

本学において、下記に掲げる単位を修得した者は、公益財団法人日本レクリエーション協会認定の指導者資格の申請ができる。※在学中の申請も可能です。

（運動栄養学科）

指導資格の種別	講 習 科 目		本学開講該当科目	
○レクリエーション・コーディネーター 学内担当： 仲野（A棟508研究室）	共通科目	1	スポーツ社会学	スポーツ社会学
		2	スポーツ心理学	スポーツ心理学
		3	スポーツ経営学	スポーツ経営学
		4	スポーツ生理学	運動生理学、スポーツバイオメカニクス、トレーニングの基礎、栄養学
		5	スポーツ医学	スポーツ医学概論、運動障害救急法（含実習）
		6	スポーツ指導論	スポーツ指導の基礎（含実習）、保健体育科教育論 I
		7	地域におけるスポーツ行政	スポーツ政策論または地域スポーツ戦略論
	専門科目	1	レクリエーションに関する基礎理論	レジャー・レクリエーション論 レクリエーション支援論 スポーツクラブ・マネジメント論（含む演習）
		2	レクリエーション指導の理論	
		3	レクリエーション組織の経営論	
		4	レクリエーション・サービス論	
	実技科目	1	コミュニケーション・ワークの指導法	レクリエーション実技 I レクリエーション実技 II 野外・レクリエーション・マネジメント論（含む演習） ニュー・ゲームズ
		2	レクリエーション種目の実技	
		3	プレゼンテーションの実際	
		4	プロモーションの実際	
		5	イベント企画・会議・財務管理の実際	
	指導実習	1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、栄養教育実習Ⅱ
	参事加業			日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエーション協会が関与する事業に2回以上参加
	○レクリエーション・インストラクター 学内担当： 高崎（F棟216研究室）	1	レクリエーション理論	レジャー・レクリエーション論
		2	レクリエーション実技	レクリエーション実技 I、レクリエーション実技 II
指導実習		1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、栄養教育実習Ⅱ
参事加業				日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエーション協会が関与する事業に2回以上参加

注 レクリエーション・コーディネーターは専門科目の筆記試験（本学で実施）での合格が必要。



## レクリエーション指導者資格の取得（スポーツ情報マスメディア学科）

### 1. レクリエーション指導者

本学では、「レクリエーション・インストラクター」、「レクリエーション・コーディネーター」、「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格が取得できる。

「レクリエーション・インストラクター」は、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できるレクリエーション指導者の基礎資格である。

そしてスポーツ情報マスメディア学科では、この「レクリエーション・インストラクター」をより専門的に学習していく上級資格として、「レクリエーション・コーディネーター」の取得もできる。

### 2. 資格取得条件

本学において、下記に掲げる単位を修得した者は、公益財団法人日本レクリエーション協会認定の指導者資格の申請ができる。※在学中の申請も可能です。

（スポーツ情報マスメディア学科）

指導資格の種別	講 習 科 目		本学開講該当科目	
○レクリエーション・コーディネーター 学内担当： 仲野（A棟508研究室）	共通科目	1	スポーツ社会学	スポーツ社会学
		2	スポーツ心理学	スポーツ心理学
		3	スポーツ経営学	スポーツ経営学
		4	スポーツ生理学	運動生理学、スポーツバイオメカニクス、トレーニングの基礎、スポーツ栄養学
		5	スポーツ医学	スポーツ医学概論、運動障害救急法（含実習）
		6	スポーツ指導論	スポーツ指導の基礎（含実習）、保健体育科教育論Ⅰ
		7	地域におけるスポーツ行政	スポーツ政策論または地域スポーツ戦略論
	専門科目	1	レクリエーションに関する基礎理論	レジャー・レクリエーション論 レクリエーション支援論 スポーツクラブ・マネジメント論（含む演習）
		2	レクリエーション指導の理論	
		3	レクリエーション組織の経営論	
		4	レクリエーション・サービス論	
	実技科目	1	コミュニケーション・ワークの指導法	レクリエーション実技Ⅰ レクリエーション実技Ⅱ 野外・レクリエーション・マネジメント論（含む演習） ニュー・ゲームズ
		2	レクリエーション種目の実技	
		3	プレゼンテーションの実際	
		4	プロモーションの実際	
		5	イベント企画・会議・財務管理の実際	
	実指習導	1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ
	参事加業			日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエーション協会が関与する事業に2回以上参加
	○レクリエーション・インストラクター 学内担当： 高崎（F棟216研究室）	1	レクリエーション理論	レジャー・レクリエーション論
		2	レクリエーション実技	レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱ
実指習導		1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 スポーツマネジメント実習、教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ
参事加業				日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエーション協会が関与する事業に2回以上参加

注 レクリエーション・コーディネーターは専門科目の筆記試験（本学で実施）での合格が必要。

## レクリエーション指導者資格の取得（子ども運動教育学科）

### 1. レクリエーション指導者

本学では、「レクリエーション・インストラクター」、「レクリエーション・コーディネーター」、「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格が取得できる。

「レクリエーション・インストラクター」は、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できるレクリエーション指導者の基礎資格である。

### 2. 資格取得条件

本学において、下記に掲げる単位を修得した者は、公益財団法人日本レクリエーション協会認定の指導者資格の申請ができる。※在学中の申請も可能です。

（子ども運動教育学科）

指導資格の種別	講 習 科 目		本学開講該当科目	
○レクリエーション・インストラクター 学内担当： 高崎（F棟216研究室）	1	レクリエーション理論	レジャー・レクリエーション論	
	2	レクリエーション実技	レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱ	
	実指 習導	1	現場実習（支援実習）	以下の実習より1科目選択 保育実習Ⅰまたは幼稚園教育実習Ⅱ
	参事 加業			日本レクリエーション協会や各都道府県レクリエーション協会が関与する事業に2回以上参加

# NSCA-CPT、CSCS 資格の取得 (体育学科スポーツトレーナーコース・フィットネストレーナー領域)

## 1. NSCA-CPT および CSCS の概要

近年、競技スポーツ場面ではパフォーマンスの向上や傷害予防を目的として、専門知識を基に選手の指導を行うストレングス&コンディショニングコーチの需要が高まっている。また、体力づくりを目的とする人などを対象に運動プログラムを作成し、指導を行うことができる人材が求められている。NSCA (National Strength and Conditioning Association) では、「NSCA 認定パーソナルトレーナー (NSCA-CPT)」、「認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト (CSCS)」の資格を付与し、研究に裏づけられたストレングス&コンディショニングに関する知識を普及させ、子供から高齢者にいたるすべての人々の健康増進と、アスリートの競技力向上および傷害予防を支援している。

名 称	主 な 役 割
NSCA 認定パーソナルトレーナー (NSCA-CPT)	主に子供から高齢者の体力づくりを目的に、個人に応じた運動プログラムを作成し指導を行う。 予想される進路として、民間フィットネスクラブや公共トレーニング施設があげられる。
認定ストレングス & コンディショニングスペシャリスト (CSCS)	主にスポーツ選手のパフォーマンスの向上と傷害予防を目的に、ストレングストレーニングを中心とした安全で効果的な運動プログラムの作成・指導を行う。 予想される進路として、大学や体育館、民間フィットネスクラブ、プロスポーツ等のチームがあげられる。

## 2. 資格の認定

- ① 認定校制度を活用してNSCA-CPTもしくはCSCSの資格を取得しようとする場合には、それぞれの資格に関わる所定の科目（別表の本学開講科目）の単位を取得し、NSCA ジャパン認定校特別認定試験に合格しなければならない。
- ② 試験日の1年後までに、NSCA ジャパンが認める団体が発行するCPR（心肺蘇生法）とAEDの認定証を保持している、または運動障害救急法（本学開講科目）の単位を取得していることが条件となる（願書提出時まで条件を満たしていることが望ましい）。
- ③ 認定試験に合格した場合には、NSCA ジャパンに会員として入会する必要がある（学生会員：10,800円）。
- ④ 認定校制度が適用できる学生は、カリキュラムの関係上、スポーツトレーナーコース・フィットネストレーナー領域所属学生のみに限定する（NSCA-CPT、CSCS 共通）。
- ⑤ 詳細については、資格取得希望者を対象としたオリエンテーションで説明するため、掲示板の指示に注意すること。

## 3. NSCA 認定校の主な特典

- ① 認定試験の受験料が割引される（割引後受験料：NSCA-CPT 34,900円、CSCS 39,000円）。
- ② 各種講習会に割引価格で参加できる。
- ③ 各種教材を割引価格で購入できる（定価の15～20%割引）。
- ④ 本学開講科目の「ストレングス&コンディショニング実習」内で行われる「レジスタンストレーニング」の試験に合格した認定試験合格者には、卒業時にNSCA ジャパンのレベルアッププログラム（実技）のレベルIの資格も合わせて付与される。

● NSCA-CPT

NSCA 指定科目		本学開講該当科目
必須カリキュラム	人体解剖学	解剖・生理学
	人体生理学	解剖・生理学
	運動科学／生理学	運動生理学
	栄養学（スポーツ栄養学を推奨）	スポーツ栄養学
	パーソナルトレーニングの基礎	トレーニングのプログラムデザイン
	バイオメカニクス／身体動作／運動学	スポーツバイオメカニクス
	エクササイズ&レジスタンストレーニング技術と指導テクニック（実技）	ストレングス&コンディショニング実習
	クライアントとの面談および体力評価	体力相談と運動処方
	緊急時の対応	運動障害救急法（含実習）
	パーソナルトレーニングにおける法的諸問題	法学
	エクササイズ指導実習（現場でのインターンシップ）	フィットネストレーナー・インターンシップ実習
	心理学／スポーツ心理学	スポーツ心理学

● CSCS

NSCA 指定科目		本学開講該当科目
必須カリキュラム	人体解剖学&生理学	解剖・生理学
	運動生理学	運動生理学
	キネシオロジー&バイオメカニクス	スポーツバイオメカニクス
	栄養学（スポーツ栄養学を推奨）	スポーツ栄養学
	ストレングス&コンディショニングの科学的原則	スポーツトレーナー概論
	レジスタンストレーニングとコンディショニング（実技）	ストレングス&コンディショニング実習
	指導実習（現場でのインターンシップ）	フィットネストレーナー・インターンシップ実習
	緊急処置（応急処置、CPR、AED）	運動障害救急法（含実習）
	エクササイズテクニック／無酸素性エクササイズを中心とした運動処方	体力相談と運動処方
	ストレングス&コンディショニングに関連したプログラムデザイン	トレーニングのプログラムデザイン

## JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー資格の取得

JPSUは、体育スポーツ系大学の教育、研究、経営に関する調査研究を行い、我が国の体育スポーツ領域の発展に寄与することを目的として2015年に設立されました。JPSUの目的のひとつに人材育成による健康福祉大国の実現があります。JPSUスポーツトレーナーは、JPSUが認定する最初の資格で、体育・スポーツの専門性を活かした様々な知識・技術を駆使し、スポーツにおけるケガの予防、スポーツ現場での救急処置、運動の実践・指導ができる人材の養成を目指しています。体育スポーツ系大学の特色を活かし、医療分野に特化せず、スポーツ選手及びスポーツ実践者が、安全にかつ効果的にスポーツを行えるよう、スポーツ医科学に基づいたスポーツ外傷・障害の予防や救急処置、コンディション調整、トレーニング指導などの身体づくりの専門的知識や技術を習得することが求められています。

JPSUスポーツトレーナーは本学全学科の学生が取得可能です。資格を取得するためには、まず本学が開講する以下の該当科目で単位を取得する必要があります。その後、修了認定講習会（1日）に参加し、同日実施される論述試験に合格した者が、大学卒業をもって認定されます。修了認定講習会参加費および論述試験受験料は合わせて2万円です。なお修了認定講習会へ参加するためには、一次救命処置（BLS）資格の保持も義務づけられています。

詳細については資格取得希望者を対象としたオリエンテーション内で説明します。オリエンテーションは履修登録を締め切る前の4月中に実施しますが、詳しい日程等は掲示にて案内します。

体育学科（19番代）

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎（含実習）
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 器械体操、ダンス I
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2 トレーニングの基礎、コンディショニング実習、アスレティックリハビリテーション実習、ストレングス&コンディショニング実習、体操（含体づくり運動）	
	現場実習	1 教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅴ、フィットネストレーナー・インターンシップ実習、健康づくり運動現場実習（集中）	
	体力測定評価 救急処置法	1 1 1	1 1 1
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	1 運動生理学
	スポーツ栄養学	1	1 スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	1 スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	1 トレーニング方法論、体力相談と運動処方
	バイオメカニクス	1	1 スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	1 アスレティックトレーニング論Ⅰ、解剖生理学
	コンディショニング	1	1 コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学（内科）	1	1 スポーツ医学概論、スポーツ医学B
	スポーツ医学（運動器）	1	1 スポーツ医学A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

体育学科（16・17・18番代）

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎（含実習）
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 体操（含体づくり運動）、器械体操
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習、アスレティックリハビリテーション実習、ストレングス&コンディショニング実習、アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅳ
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、アスレティックトレーナー・インターンシップ実習Ⅴ、フィットネストレーナー・インターンシップ実習、健康づくり運動現場実習（集中）
	体力測定評価 救急処置法	1 1	1 1
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	1 運動生理学
	スポーツ栄養学	1	1 スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	1 スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	1 トレーニング方法論
	バイオメカニクス	1	1 スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	1 アスレティックトレーニング論Ⅰ
	コンディショニング	1	1 コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学（内科）	1	1 スポーツ医学概論、スポーツ医学B
	スポーツ医学（運動器）	1	1 スポーツ医学A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。



### 健康福祉学科 (19番代)

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎 (含実習)
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 器械体操、ダンス I
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	健康運動指導実技、コンディショニング実習、 体操 (含体づくり運動)
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、健康づくり運動現場実習 (集中)
	体力測定評価	1	体力測定評価実習 (集中)
救急処置法	1	運動障害救急法 (含実習)	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論、体力相談と運動処方
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論 I、医学一般
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学 (内科)	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学 B
	スポーツ医学 (運動器)	1	スポーツ医学 A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

### 健康福祉学科 (16・17・18番代)

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎 (含実習)
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 体操 (含体づくり運動)、器械体操
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	健康運動指導実技、コンディショニング実習
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、健康づくり運動現場実習 (集中)
	体力測定評価	1	体力測定評価実習 (集中)
救急処置法	1	運動障害救急法 (含実習)	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	栄養学概論、スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論 I
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学 (内科)	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学 B
	スポーツ医学 (運動器)	1	スポーツ医学 A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。



運動栄養学科 (19番代)

講習科目		科目数	本学開講該科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎 (含実習)
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 器械体操、ダンス I
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習、 アスレティックリハビリテーション実習、 体操 (含体づくり運動)
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、健康づくり運動現場実習 (集中)
	体力測定評価	1	運動指導演習
救急処置法	1	運動障害救急法 (含実習)	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論、体力相談と運動処方
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論 I、解剖生理学 I
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学 (内科)	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学 B
	スポーツ医学 (運動器)	1	スポーツ医学 A

※ 健康づくり運動現場実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

運動栄養学科 (16・17・18番代)

講習科目		科目数	本学開講該科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎 (含実習)
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 体操 (含体づくり運動)、器械体操
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習、 アスレティックリハビリテーション実習
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、健康づくり運動現場実習 (集中)
	体力測定評価	1	運動指導演習
救急処置法	1	運動障害救急法 (含実習)	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論 I
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学 (内科)	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学 B
	スポーツ医学 (運動器)	1	スポーツ医学 A

※ 健康づくり運動現場実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

## スポーツ情報マスメディア学科（19番代）

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎（含実習）
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 器械体操、ダンス I
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習、 体操（含体づくり運動）
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、 健康づくり運動現場実習（集中授業）
	体力測定評価	1	体力測定評価実習（集中）
救急処置法	1	運動障害救急法（含実習）	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論Ⅰ、解剖生理学
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学（内科）	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学B
	スポーツ医学（運動器）	1	スポーツ医学A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

## スポーツ情報マスメディア学科（16・17・18番代）

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎（含実習）
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 体操（含体づくり運動）、器械体操
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、 健康づくり運動現場実習（集中授業）
	体力測定評価	1	体力測定評価実習（集中）
救急処置法	1	運動障害救急法（含実習）	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論Ⅰ
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学（内科）	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学B
	スポーツ医学（運動器）	1	スポーツ医学A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

現代武道学科 (19番代)

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎 (含実習)
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道Ⅰ、剣道Ⅰ
		基礎運動	1 器械体操、ダンスⅠ
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習、 体操 (含体づくり運動)
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、 健康づくり運動現場実習 (集中授業)
	体力測定評価	1	体力測定評価実習 (集中)
救急処置法	1	運動障害救急法 (含実習)	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニングのプログラムデザイン
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論Ⅰ、解剖生理学
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学 (内科)	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学B
	スポーツ医学 (運動器)	1	スポーツ医学A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

現代武道学科 (16・17・18番代)

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎 (含実習)
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道Ⅰ、剣道Ⅰ
		基礎運動	1 体操 (含体づくり運動)、器械体操
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習
	現場実習	1	教育実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、 健康づくり運動現場実習 (集中授業)
	体力測定評価	1	体力測定評価実習 (集中)
救急処置法	1	運動障害救急法 (含実習)	
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニングのプログラムデザイン
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論Ⅰ
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学 (内科)	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学B
	スポーツ医学 (運動器)	1	スポーツ医学A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

## 子ども運動教育学科（19番代）

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎（含実習）
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 器械体操、ダンス I
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習、 体操（含体づくり運動）
	現場実習	1	健康づくり運動現場実習（集中授業）、
	体力測定評価	1	体力測定評価実習（集中）
	救急処置法	1	運動障害救急法（含実習）
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論 I
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学（内科）	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学 B
	スポーツ医学（運動器）	1	スポーツ医学 A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

## 子ども運動教育学科（16・17・18番代）

講習科目		科目数	本学開講該当科目
スポーツトレーナーに必要な資質		1	スポーツ指導の基礎（含実習）
体育スポーツ に対する 運動実践 運動指導 予防対応 救急対応	体育スポーツ 実践・指導	記録系競技	1 陸上競技、水泳
		球技系競技	1 バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー
		武道・格闘技系	1 柔道、剣道
		基礎運動	1 体操（含体づくり運動）、器械体操
	トレーニングコンディショニング 実践・指導	2	トレーニングの基礎、コンディショニング実習
	現場実習	1	幼稚園教育実習Ⅱ、健康づくり運動現場実習（集中授業）
	体力測定評価	1	体力測定評価実習（集中）
	救急処置法	1	運動障害救急法（含実習）
スポーツ科学 に関する知識	スポーツ生理学	1	運動生理学
	スポーツ栄養学	1	スポーツ栄養学
	スポーツ心理学	1	スポーツ心理学
	トレーニング科学	1	トレーニング方法論
	バイオメカニクス	1	スポーツバイオメカニクス
	機能解剖学	1	アスレティックトレーニング論 I
	コンディショニング	1	コンディショニング論
スポーツ医学 に関する知識	スポーツ医学（内科）	1	スポーツ医学概論、スポーツ医学 B
	スポーツ医学（運動器）	1	スポーツ医学 A

※ 健康づくり運動現場実習および体力測定評価実習の詳細については、4月中に掲示にて案内をする。

## 障がい者スポーツ指導員資格の取得

障がい者のスポーツ振興と競技力向上に当たる指導者の資質と指導力の向上を図り、指導活動の促進と指導体制を確立するため、「(公財)日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度」が制定されている。

その種類と役割は下記の通りであるが、これは(公財)日本障がい者スポーツ協会で実施する講習会、あるいは(公財)日本障がい者スポーツ協会の指導で、地方公共団体及び関係機関並びに(公財)日本障害者スポーツ協会が認定する学校等が実施する講習会等に参加して資格を得る。

この講習会の科目は下記の指定科目からなるが、本学在学中に下記の本学開講該当科目を履修した場合は講習会の指定科目が免除される。

※ この資格は、所属するコースや専攻、または他の資格科目との関係から取得できない場合もある。

※ 本学は、初級だけの資格取得は、認められていないので、取得希望者は、中級の指定科目も履修する必要がある。

※ 初級、中級に係わるすべての科目について、卒業時までには修得すること。

### 1 指導員の種類と資格取得者の活動内容

種 類	資格取得の活動内容	資格取得条件
初級スポーツ指導員	主として身近な障害者を対象に、障害者の障害内容に基づいた活動上の健康や安全管理を重視し、スポーツの喜びや楽しさを理解させる。	18歳以上の者。(公財)日本障がい者スポーツ協会、都道府県・指定都市障害者スポーツ協会等が実施する講習会の修了者。または、本協会が認定した学校等で必要な科目を履修し、卒業をもって研修を修了した者。
中級スポーツ指導員	主として県内レベルの身近な障害者を対象に、障害者のスポーツの指導方法・技術を身につけ、より専門的にスポーツ指導に当たる。	初級スポーツ指導員として2年以上の指導経験(80時間<10日>程度)を有する者。(公財)日本障がい者スポーツ協会、都道府県・指定都市障害者スポーツ協会等が実施する講習会の修了者。または、本協会が認定した学校等で初級・中級スポーツ指導員の資格に必要な講習内容を含む科目を履修し、卒業までに3年間、計120時間(15日)以上の指導経験を積み、卒業をもって研修を修了した者。

※ 上記資格を希望する学生は4・5月に行われるオリエンテーションに参加すること。なお、日程に関しては掲示板等にて周知する。

### 2 指導資格と免除科目

在学中に下の本学開講科目を履修すると、講習会の指定科目が免除される。

なお、この資格は卒業が条件となる。

(体育学科)

指導資格の種類	講 習 科 目	本学開講該当科目
初級スポーツ指導員	障害者福祉施策と障害者スポーツ(2時間)	障害者とスポーツ
	ボランティア論(2時間)	ボランティア活動実践A ボランティア活動実践B ボランティア活動実践C ボランティア活動実践D
	障害者スポーツの意義と理念(2時間)	障害者とスポーツ
	安全管理(1時間)	スポーツ指導の基礎(含実習) 運動障害救急法(含実習)



指導資格の種別	講習科目	本学開講該当科目
初級スポーツ指導員	障害の理解とスポーツ（5時間）	スポーツ医学概論、障害者とスポーツ
	日本障害者スポーツ協会資格認定制度（1時間）	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の概要（1時間）	障害者とスポーツ
	障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）（2～4時間）	障害者とスポーツ
	障害者との交流（実技）（2時間）	障害者とスポーツ
中級スポーツ指導員	障害各論（11時間）	スポーツ医学概論、リハビリテーション論
	補装具の理解（2時間）	アスレティックリハビリテーション論
	文化としてのスポーツ（2時間）	スポーツ指導の基礎(含実習)
	身体の仕組み（2時間）	解剖・生理学
	トレーニング論（3時間）	スポーツ指導の基礎(含実習)
	発育・発達（3時間）	発育発達と老化
	救急処置法（3時間）	運動障害救急法(含実習)
	スポーツ心理学Ⅰ（3時間）	スポーツ心理学
	スポーツと栄養（2時間）	スポーツ栄養学
	障害者のスポーツ指導における留意点（3時間）	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義（2時間）	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割（2時間）	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の実施競技（2時間）	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の障害区分（2時間）	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（実施）（12時間）	実技実習
	最重度障害者のスポーツの実際（実技）（2時間）	実技実習

(健康福祉学科)

指導資格の種別	講習科目	本学開講該当科目
初級スポーツ指導員	障害者福祉施策と障害者スポーツ（2時間）	障害者とスポーツ
	ボランティア論（2時間）	ボランティア活動実践A ボランティア活動実践B ボランティア活動実践C ボランティア活動実践D
	障害者スポーツの意義と理念（2時間）	障害者とスポーツ
	安全管理（1時間）	スポーツ指導の基礎(含実習) 運動障害救急法(含実習)
	障害の理解とスポーツ（5時間）	スポーツ医学概論、リハビリテーション論
	日本障害者スポーツ協会資格認定制度（1時間）	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の概要（1時間）	障害者とスポーツ
	障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）（2～4時間）	障害者とスポーツ
	障害者との交流（実技）（2時間）	障害者とスポーツ
中級スポーツ指導員	障害各論（11時間）	スポーツ医学概論
	補装具の理解（2時間）	リハビリテーション論
	文化としてのスポーツ（2時間）	スポーツ指導の基礎(含実習)
	身体の仕組み（2時間）	医学一般
	トレーニング論（3時間）	スポーツ指導の基礎(含実習)
	発育・発達（3時間）	スポーツ心理学
	救急処置法（3時間）	運動障害救急法(含実習)
スポーツ心理学Ⅰ（3時間）	スポーツ心理学	



指導資格の種別	講 習 科 目	本学開講該当科目
中級スポーツ指導員	スポーツと栄養(2時間)	栄養学概論
	障害者のスポーツ指導における留意点(3時間)	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義(2時間)	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割(2時間)	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の実施競技(2時間)	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会の障害区分(2時間)	障害者とスポーツ
	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則(実技)(12時間)	実技実習
	最重度障害者のスポーツの実際(実技)(2時間)	実技実習

### 3 修了証明発行に関わる認定・申請手続き料及び年会費

公認障がい者スポーツ指導員の認定を希望する学生は、(公財)日本障がい者スポーツ協会に申請をする必要がある。申請は、本学で一括して行うので、資格取得希望者は下記の認定・申請手続き料及び年会費が必要となる。

※認定・申請手続き料 5,500円

※年会費 3,800円

# キャンプ指導者資格の取得

## 1. 日本キャンプ協会の指導者養成制度について

公益社団法人日本キャンプ協会では、大学の授業と連動してカリキュラムを実施することによってキャンプ指導者資格を発行できる「課程認定制度」を設けている。資格取得を希望する学生が、各自で有料の講習会を受講しに行く必要がなく、授業の単位や学内での学習によって資格を取得することができる便利な制度である。

日本キャンプ協会では、「キャンプインストラクター」、「キャンプディレクター2級」、「キャンプディレクター1級」の3種類の指導者資格を設けている。その内本学では、キャンプでの活動（アクティビティ）を指導できる「キャンプインストラクター」と、自分自身でキャンプを企画し、多くの人にキャンプの楽しさを体験してもらう機会を創りだせる「キャンプディレクター2級」を在学中に取得することが可能である。

## 2. 資格取得条件

資格名	受講資格	科目内容	本学開講該当科目	対応学科
キャンプインストラクター	満18歳以上	<b>【理論】</b> 1. キャンプの特性 2. キャンプの対象 3. キャンプの指導 4. キャンプの安全 <b>【実技】</b> 1. キャンプの安全 2. キャンプの生活技術 3. さまざまなアクティビティ	<b>『キャンプ』</b> <1年・実習>  ※キャンプの単位認定者のうち、資格希望者に筆記試験を行い、合格者に資格付与を行う	体育学科 健康福祉学科 運動栄養学科 スポーツ情報マスメディア学科 現代武道学科 子ども運動教育学科
キャンプディレクター2級	・キャンプインストラクター資格保有者 ・アウトドア活動参加経験2回以上と1泊以上のキャンプ指導経験 ・資格登録のためには、BUC事業（研修・交流会）への1回以上の参加・登録	<b>【理論】</b> 1. キャンプについて 2. キャンプディレクターの役割とキャンプカウンセリング 3. プログラムの安全管理 4. プログラムのマネジメント（企画・運営・評価・改善）	<b>『野外教育・活動論』</b> <3年・前期>  <b>『野外・レクリエーション・マネジメント論（含演習）』</b> <3年・前期>  ※上記の単位認定者にレポート課題を出し、筆記試験を行い、合格者に資格付与を行う	体育学科 健康福祉学科 運動栄養学科 スポーツ情報マスメディア学科

※BUCとは：BUC（Brush up & Communication）は、指導者全員がスキルアップを図ったり、活動の場を拡げたりすることを目的として全国で行われている指導者研修会のことである。日本キャンプ協会及び都道府県キャンプ協会が実施する研修事業で、学びを深めたり、新しい情報を得たり、多くのキャンプ仲間に出会ったりすることができる。

## 3. 資格取得に必要なテキストと費用

	使用テキスト	初期登録費用	更新料（年会費）
キャンプインストラクター	『キャンプ指導者入門』 ¥2,000	¥13,000	¥6,000/年 (BUCに参加した場合、1,000円が免除になり、5,000円となる)
キャンプディレクター2級	『キャンプディレクター必携』 ¥2,000	¥10,000	¥7,000/年 (BUCに参加した場合、2,000円が免除になり、5,000円となる)

#### 4. 資格取得者のメリット

①「指導者賠償責任」に自動的に加入される（補償限度額 対人1名5,000万円、対人1事故3億円、対物1事故1,000万円）。②補償が大きく割安なキャンプ保険が利用できる。③会員情報誌「CAMPING」が2ヶ月に1度送られてくる。④「キャンプ研究」が年に1度送られてくる（キャンプディレクター2級のみ）。⑤Facebookグループ「会員のひろば」への参加資格が得られる。⑥スポーツオーソリティで10%以上の割引が受けられる。⑦協会主催の講習会や研修会に会員価格で参加できる。⑧ユースホステルの団体パスが利用できる。

#### 5. その他

- ・原則として、資格取得条件を満たした翌年からの資格発行となる（例えば、1年生でキャンプを受講し、テストに合格した場合、キャンプインストラクターの資格は2年生の4月から付与される）。
- ・キャンプインストラクターの登録を完了すると、「日本キャンプ協会」と「希望する支部協会」の両方に会員として登録される。

## 「体育施設管理士」の資格の取得（体育学科）

公益財団法人日本体育施設協会は体育施設の維持管理・運営に関する総合的な知識を修得することによって、体育施設管理者の資質向上とともに、わが国の体育・スポーツの振興に寄与することを目的として「体育施設管理士」の資格を認定しています。国家資格ではないが、公的な機関が認定している唯一の体育施設管理の資格である。

仙台大学を卒業後保健体育の教員を目指す学生、及び体育施設を管理・運営する業務を行う行政または事業体に就職を目指す学生を対象に、必要な科目を修得して3.(1)に該当する者は、本学が「体育施設管理士」の養成校の認定を受けているので、講習会が免除されて、（公財）日本体育施設協会の資格認定試験（学内で実施）の受験資格が得られる。

### 1. 「体育施設管理士」の資格取得の薦め

資格取得の該当科目の「スポーツ施設管理概論Ⅰ及びⅡ」と「スポーツ施設の経営・管理」はスポーツ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性及び自然環境保全に関する事など幅広い専門知識を修得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来、しかもスポーツ施設が安全に保たれる管理手法を身に付けられるように構成されている。また課題に取り組むことにより商業スポーツ施設の「経営理念」、「社是」、「社訓」を考察する事や具体的な「管理計画書」を策定する事が出来るようになる。他の教員に持ち合わせの無いこの様な知識とテクニックを身につける事は保健体育教員になったときに、授業や部活動の運営に役立てる事が出来、ひいては教員採用に関する特徴の一つとなる事が期待される。体育施設を運営する企業や一般企業に就職しようとしている学生に対しても同様なことが期待される。現在は自治法の改正により公の施設の管理運営が民間でも出来るように「指定管理者制度」が実施されており、指定管理者の公募に当たっては応募団体が、管理業務にふさわしい管理者として「体育施設管理士」の資格を保有していることが他の企業との相違点としてクローズアップされる。すなわち、体育施設を指定管理者制度の活用で運営しようとする企業や団体は申請書類に記載する資格としてこの「体育施設管理士」の資格を重要とし、有資格者を人材として求めている。

是非資格を取得して将来の糧にすることを願っている。

### 2. 本学に於ける「体育施設管理士」の資格の取得に関する科目

**必修科目：**本学の学生で、「体育施設管理士」の資格を取得しようとする者は、本学において、卒業に必要な単位を修得したほか、次の表に掲げる科目を修得しなければならない。

種別	協会実施の養成講習会講習科目		本学開講該当科目	単位数	履修学年
体育施設管理士	1	体育館・武道館等の維持管理	スポーツ施設管理概論Ⅰ および スポーツ施設管理概論Ⅱ	2	3
	2	各種スポーツフロアの構造と維持管理			
	3	屋外スポーツ施設の維持管理			
	4	水泳プールの維持管理			
	5	スポーツ施設の照明と維持管理			
	6	スポーツ施設の音響と維持管理		2	3
	7	芝生の造成と維持管理			
	8	スポーツ施設の用器具と維持管理			
	9	スポーツ施設の診断(保全と劣化)			
	10	スポーツ事故と対策(リスクマネジメント)			
	11	スポーツ施設経営論	スポーツ施設の経営・管理	2	3
	12	スポーツマーケティング			
	13	スポーツ救急手当講習会、基礎コース	運動障害救急法(含実習)	2	2
	14	資料、スポーツ施設と衛生・消防法規	資料配布		

### 3. 本学に於ける「体育施設管理士」の資格認定試験の受験方法

- (1) 前述2. に掲げた該当科目を履修し、更に（公財）日本体育施設協会の養成講習会を免除されると成績が判定された者に『仙台大学体育施設管理士養成講習会修了証』を授与する。
- (2) 認定試験受験資格者は、卒業時に満20歳以上になる者。
- (3) 『仙台大学体育施設管理士養成講習会修了証』を授与されたものは、書類を教育企画室経由で協会に提出し、体育施設管理士資格認定試験を受験できる。
- (4) 受験料10,000円（特別会員として5,000円の割引適用）と認定登録料20,000円合計30,000円を会計事務室の所定の口座に各自振り込む（協会の代理収納）。保護者が振り込む時でも本人名義で振り込むこと。本人名義の前に必ず学籍番号を付ける。
- (5) 一旦納入した受験料は受験資格が不相当と判明した時以外理由の如何を問わず一切返金いたしません。（認定試験を欠席しても返金いたしません。）
- (6) 一旦納入した認定登録料は不合格の時以外お返しいたしません。（辞退してもお返しいたしません。）
- (7) （公財）日本体育施設協会の認定試験は本学内で開催する。（開催時期未定であるが年度内2月上旬に実施）

### 4. 資格認定証発行に関わる申請手続き

- (1) （公財）日本体育施設協会の認定委員会の審査を経て合格通知を受け取る。
- (2) 代理収納した会計事務室から合格者数分の認定登録料を（公財）日本体育施設協会に支払う。
- (3) （公財）日本体育施設協会から認定証の交付を受けて資格を取得する。
- (4) 不合格者には認定登録料を代理収納した会計事務室から返金する。

# 社会調査士資格の取得（スポーツ情報マスメディア学科・現代武道学科）

## 1. 社会調査士

社会調査士は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等を捉えることのできる能力を有する調査の専門家のことである。

現代の情報化社会では、おびただしい数の社会調査が行われている。変動の激しい、多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ、生起する様々な課題や社会問題の解決を図っていく上で、社会調査は不可欠の方法である。こうした社会調査の高まる重要性と共に、その担い手となる専門的人材の育成が肝要となっている。

本学においては、これらの要望に応えるべく社会調査士の養成を目指すものである。

## 2. 社会調査士資格

社会調査士資格は、学部卒業レベルの資格であり、社会調査に関する基礎的な知識・技能・相応の応用力と倫理観を身につけた人材に対し認定される。認定の可否は、一般社団法人社会調査協会が行う（一般社団法人社会調査協会ホームページなどを参照のこと）。

## 3. 資格取得条件

社会調査士の資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を取得したほか、下記に掲げる単位を取得し、定められた認定審査を経なければならない。認定審査の後、一般社団法人社会調査協会より認定を受ける。

社会調査協会の標準科目		本学開講該当科目
1	社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査法Ⅰ
2	調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法Ⅱ
3	基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会統計学Ⅰ
4	社会調査に必要な統計学に関する科目	社会統計学Ⅱ
5	質的な分析の方法に関する科目	社会調査演習
6	社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査実習

- 注 1) 認定審査には手数料16,500円（税込）が必要。  
2) 在学中は正規資格ではなく、社会調査士（キャンディデイト）証明書が交付される（手数料16,500円（税込）が必要）。  
3) 社会調査士（キャンディデイト）から、正規資格に変更する際に、資格変更手数料5,500円（税込）が必要。  
4) 社会調査演習及び社会調査実習を履修することができるのは、社会調査法Ⅰ、Ⅱの単位を修得した者に限る。



# NR・サプリメントアドバイザー資格の取得

(運動栄養学科は学校会員扱い、他学科は一般扱いで受講・受験可能)

## 1. NR・サプリメントアドバイザー<sup>\*</sup>の役割

NR・サプリメントアドバイザーは、保健機能食品及びサプリメントについて、専門的観点から個人個人の栄養状態を評価し、適切にアドバイスできる人材であり、取得のための通信講座は厚生労働省のガイドラインに完全準拠している。

※平成24年度より、国立健康栄養研究所認定のNR (Nutritional Representative：栄養情報担当者)と日本臨床栄養協会認定のサプリメントアドバイザー(SA)が統合され、「NR・サプリメントアドバイザー」として新たにスタート。認定団体は「日本臨床栄養協会(日本サプリメントアドバイザー認定機構)」。サプリメント指導者資格として、わが国で最も信頼されている資格の一つ。本学運動栄養学科は、平成25年度から協会より学校会員として登録・承認されている。

## 2. サプリメントアドバイザー活躍の場

- ① スポーツ選手への栄養指導・美容関係
- ② 地域社会での食生活改善活動
- ③ 保健機能食品の開発・製造・販売会社
- ④ 病院、診療所、保健所、保健センター等の医療・保健機関
- ⑤ 消費者センター等の消費者相談機関
- ⑥ ドラッグストア・調剤薬局など

## 3. 認定制度

サプリメントアドバイザーの質の確保および向上を図るために認定試験制度と更新制度により認定が行われる。協会所定の通信講座を受講し必要単位を取得後、認定試験受験。認定試験は毎年12月第一土曜日(会場は東京・札幌等。日時は年度によって変更になる場合もある)。

## 4. 通信講座・受験科目…仙台大学授業科目の取得単位とは無関係に受講・受験できる。管理栄養士国家試験と範囲が重複する部分もあり、本資格の受験勉強を将来に活かすことができる。

- ① NR・サプリメントアドバイザーの役割と倫理
- ② 基礎の生理学
- ③ 基礎の生化学
- ④ 人間栄養学
- ⑤ 生活習慣病概論
- ⑥ 臨床栄養と臨床検査
- ⑦ 身体活動と栄養
- ⑧ 食品安全衛生学
- ⑨ 健康食品
- ⑩ 臨床薬理学
- ⑪ 食品機能の科学的根拠
- ⑫ 行動科学とカウンセリング
- ⑬ 国内外の関連法規—食品の健康表示と安全性—

## 5. 諸費用について（対象学年は原則新2～4年生）

入会金：運動栄養学科は免除・他学科1,000円

年会費：運動栄養学科は4,000円・他学科8,000円

通信教育初回受講料：運動栄養学科5,000円・他学科50,000円

テキスト『NR・サプリメントアドバイザー必携（第4版）』4,860円

認定試験受験料15,000円

[以下は、資格取得後]

年会費8,000円（在学中は運動栄養学科で4,000円・他学科は8,000円）

更新のために5年ごとに下記より50単位を取得

- ① 日本臨床栄養協会学術大会への参加10単位（参加費用10,000円）
- ② サプリメントフォーラムへの参加10単位（上記参加費用を含む）
- ③ 協会主催レベルアップセミナーへの参加10単位（参加費用3,000円）
- ④ 通信教育の再受講20単位（受講費用20,000円）
- ⑤ サプリメントフォーラム収録DVDによる学習10単位（価格6,000円）。但しフォーラム参加者が収録DVDを購入した場合、さらなる単位加算はされない。
- ⑥ 論文発表10単位等

## 6. その他

詳細についてはオリエンテーションや説明会等で配布される資料を参考にして下さい。質問等があれば本学担当者まで問い合わせして下さい。

# 「日本幼児体育学会の幼児体育指導員」の資格の取得（子ども運動教育学科）

## 1. 幼児体育指導員

日本幼児体育学会の幼児体育指導員とは、平成17年8月19日、幼児体育に関する科学的な理論と実践の両立を目指すことにより、国際的・学際的ならびに学術的研究の進歩と発展を基に、理論的裏づけによる実践的指導の普及・振興を図ることを目的とし、設立された。その一つの事業である幼児体育の普及のために、学会資格認定による幼児体育指導者の養成講習会において幼児体育指導員の育成に当たっている。

## 2. 資格の種類

- ① 「INTRODUCTORY LEVEL（初級）」幼児体育の指導に興味や関心のある方で、初級の指導員養成講習会に参加し、審査に合格した者。
- ② 「INTERMEDIATE LEVEL（中級）」初級の認定を受けた方で、中級の指導員養成講習会に参加し、審査に合格した者。幼児体育の指導経験や本学会大会への参加実績などの経験を有すること。
- ③ 「ADVANCED LEVEL（上級）」学会正会員で中級の認定を受けた方で、上級の指導員養成講習会に参加し、審査に合格した者。幼児体育の指導経験や本学会大会への参加・発表実績などの経験を有すること。
- ④ 「PROFESSIONAL LEVEL（専門）」学会正会員で初級の認定を受けた方で、かつ、実践経験や本学会大会発表実績などの経歴を有し（経験履歴の提出）、専門指導員講習会と初級指導員養成講習会を修了し、審査に合格した者（本学会認定幼児体育指導員養成講習会の講師資格となる）。
- ⑤ 「幼児のリズム運動指導員」幼児のリズム運動の指導に興味や関心のある方で、幼児のリズム運動指導員養成講習会に参加し、審査に合格した者。
- ⑥ 「運動遊具の安全管理・安全指導スペシャリスト」運動遊具の安全管理・安全指導に興味や関心のある方で、運動遊具の安全管理・安全指導スペシャリスト養成講習会に参加し、審査に合格した者。

仙台大学では、幼児体育指導員の講習会を、一定人数の習得希望者が集まれば本学を会場に提供し実施することで、資格習得を支援する。まずは、「INTRODUCTORY LEVEL（初級）」講習会を1～2年次に受講し、実習及びボランティア活動等で実践経験を積んだ学生が3～4年次に「INTERMEDIATE LEVEL（中級）」講習会を受講することが望ましい。

## 3. 講習会の内容

### ① 「INTRODUCTORY LEVEL（初級）」

#### ◆講習1日目（理論編）、(30分10コマ)

- ・近年の子どもの身体の異変とその対策
- ・子どもの生活と運動
- ・幼児体育の意義と役割
- ・幼児体育指導の基本と指導内容
- ・幼児体育指導上の留意事項
- ・障がい児の体育指導

※筆記テストあり（2日目午前）、50問（60%正解で合格）

◆講習 2 日目（実技編）、（30分10コマ）

- ・ 体育あそびの実際 からだを使った体育あそび
- ・ 用具を使った体育あそび
- ・ 移動遊具を使った体育あそび
- ・ 固定遊具を使った体育あそび
- ・ 運動会種目、レクリエーション種目、競技種目、表現・リズム種目
- ・ 障がい児の体育指導

※実技テストあり（2 日目実技講習修了後）

② 「INTERMEDIATE LEVEL（中級）」

◆講習 1 日目（指導計画・演習編）

- ・ 運動あそび・運動会種目の創作
- ・ 幼児体育指導上の留意点
- ・ 幼児体育のための運動実践（キッズエアロビック、器械運動、テーパーボールあそびなど）

◆講習 2 日目（理論編）

- ・ 幼児の体力・運動能力、運動スキルの発達
- ・ 運動のつまずきと子どもへの対応
- ・ 救急法

※筆記テスト、課題提出あり（2 日目講習終了後）

#### 4. 講習会の受講方法

- ・ 申請手続きの方法：基本的には個人申込
- ・ 受講料：10,000円（子ども運動教育学科の「幼児体育論」、「幼児体育指導論」履修者は5,000円）
- ・ 認定・登録料：5,000円

# 社会教育主事任用資格の取得

## 1. 社会教育主事任用資格の取得方法

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局等に置かれる専門的教育職員であり、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与えることを職務としている。

大学に2年以上在学して、62単位以上を修得し、かつ、大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者は、1年以上社会教育主事補等として在職した場合等に、社会教育主事となる資格を有することになる（社会教育法第9条の4及び社会教育主事講習等規程を参照のこと）。

## 2. 本学における社会教育に関する科目（社会教育主事任用資格の取得に必要な科目）

- (1) 社会教育主事任用資格を取得しようとする者は、次の表に掲げる科目から24単位以上を修得しなければならない（学科により異なるので注意すること）。
- (2) 生涯学習概論B、社会教育計画A、B及び社会教育演習A、Bを履修することができるのは、生涯学習概論Aの単位を修得した者に限る。
- (3) 社会教育主事任用資格に関する科目単位修得証明書（見込証明書）が必要な者は、教育企画室に願い出ること。

### (体育学科 全学年)

省令科目	本学開講科目	種別	単位数	履修学年	必選の別	
生涯学習概論	生涯学習概論A	講義	2	1	必修	12 単位 以上 を 修 得
	生涯学習概論B	講義	2	2	必修	
社会教育計画	社会教育計画A	講義	2	3	必修	
	社会教育計画B	講義	2	4	必修	
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち一以上の科目	社会教育演習A	演習	2	3	必修	
	社会教育演習B	演習	2	4	必修	
社会教育特講Ⅰ	教育社会学	講義	2	2	必修	
社会教育特講Ⅱ	地域スポーツ戦略論	講義	2	2	選択	
	スポーツ指導の基礎（含実習）	講義	2	2	必修	
	スポーツ施設の経営・管理	講義	2	3	選択	
社会教育特講Ⅲ	教育の基礎理論	講義	2	2	選択	
	教育の心理	講義	2	2	選択	
	スポーツ社会学	講義	2	1	必修	
	スポーツ心理学	講義	2	1	必修	
	エコロジー概論	講義	2	1～3	選択	

### (健康福祉学科 全学年)

省令科目	本学開講科目	種別	単位数	履修学年	必選の別	
生涯学習概論	生涯学習概論A	講義	2	1	必修	12 単位 以上 を 修 得
	生涯学習概論B	講義	2	2	必修	
社会教育計画	社会教育計画A	講義	2	3	必修	
	社会教育計画B	講義	2	4	必修	
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち一以上の科目	社会教育演習A	演習	2	3	必修	
	社会教育演習B	演習	2	4	必修	
社会教育特講Ⅰ	教育社会学	講義	2	2	必修	
社会教育特講Ⅱ	地域スポーツ戦略論	講義	2	2	選択	
	スポーツ指導の基礎（含実習）	講義	2	2	必修	
	レジャー・レクリエーション論	講義	2	2	選択	
社会教育特講Ⅲ	教育の基礎理論	講義	2	2	選択	
	教育の心理	講義	2	2	選択	
	スポーツ社会学	講義	2	1	必修	
	スポーツ心理学	講義	2	1	必修	
	エコロジー概論	講義	2	1～3	選択	

(運動栄養学科 全学年)

省令科目	本学開講科目	種別	単位数	履修学年	必選の別
生涯学習概論	生涯学習概論A	講義	2	1	必修
	生涯学習概論B	講義	2	2	必修
社会教育計画	社会教育計画A	講義	2	3	必修
	社会教育計画B	講義	2	4	必修
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち一以上の科目	社会教育演習A	演習	2	3	必修
	社会教育演習B	演習	2	4	必修
社会教育特講Ⅰ	教育社会学	講義	2	2	必修
社会教育特講Ⅱ	地域スポーツ戦略論	講義	2	2	選択
	スポーツ指導の基礎(含実習)	講義	2	2	必修
	スポーツ施設の経営・管理	講義	2	3	選択
社会教育特講Ⅲ	教育の基礎理論	講義	2	2	選択
	教育の心理	講義	2	2	選択
	スポーツ社会学	講義	2	1	必修
	スポーツ心理学	講義	2	1	必修
	エコロジー概論	講義	2	1	必修
				2	1~3

12単位以上を修得

(スポーツ情報マスメディア学科 全学年)

省令科目	本学開講科目	種別	単位数	履修学年	必選の別
生涯学習概論	生涯学習概論A	講義	2	1	必修
	生涯学習概論B	講義	2	2	必修
社会教育計画	社会教育計画A	講義	2	3	必修
	社会教育計画B	講義	2	4	必修
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち一以上の科目	社会教育演習A	演習	2	3	必修
	社会教育演習B	演習	2	4	必修
社会教育特講Ⅰ	教育社会学	講義	2	2	必修
社会教育特講Ⅱ	地域スポーツ戦略論	講義	2	3	選択
	スポーツ指導の基礎(含実習)	講義	2	1	必修
	レジャー・レクリエーション論	講義	2	2	選択
社会教育特講Ⅲ	教育の基礎理論	講義	2	2	選択
	教育の心理	講義	2	2	選択
	スポーツ社会学	講義	2	1	必修
	スポーツ心理学	講義	2	1	必修
	エコロジー概論	講義	2	1	必修
				2	1~3

12単位以上を修得

(現代武道学科 全学年)

省令科目	本学開講科目	種別	単位数	履修学年	必選の別
生涯学習概論	生涯学習概論A	講義	2	1	必修
	生涯学習概論B	講義	2	2	必修
社会教育計画	社会教育計画A	講義	2	3	必修
	社会教育計画B	講義	2	4	必修
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち一以上の科目	社会教育演習A	演習	2	3	必修
	社会教育演習B	演習	2	4	必修
社会教育特講Ⅰ	教育社会学	講義	2	2	必修
社会教育特講Ⅱ	スポーツ指導の基礎(含実習)	講義	2	2	必修
	ジュニアスポーツコーチング論	講義	2	3	選択
	武道指導論	講義	2	3	選択
社会教育特講Ⅲ	教育の基礎理論	講義	2	2	選択
	教育の心理	講義	2	2	選択
	スポーツ社会学	講義	2	1	必修
	スポーツ心理学	講義	2	1	必修
	エコロジー概論	講義	2	1	必修
				2	1~3

12単位以上を修得



## 社会福祉主事任用資格について

社会福祉主事任用資格は、社会福祉の仕事に就く人の基礎的な資格である。社会福祉法では、福祉事務所で仕事をする職員に共通する基礎資格とされている。

社会福祉主事任用資格については社会福祉法第19条第1号において、「学校教育法に基づく大学等において、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修めて卒業した者」と定められている。

任用資格とは、国家公務員・地方公務員に採用後、特定の業務に任用される時に必要とされる資格のことをいう。

本学においては、次の表に掲げる本学該当科目の中から3科目以上履修し、卒業することが必要である。

なお、3科目以上を履修したことを証明する書類として、本学から出される卒業証明書と成績証明書の2点をもって確認すること。

(体育学科)

指導資格の種別	省 令 科 目	本学開講該当科目
社会福祉主事任用資格	法学	法学
	心理学	心理学概論
	社会学	社会学概論
	教育学	教育の基礎理論※
	公衆衛生学	衛生・公衆衛生学※

(健康福祉学科)

指導資格の種別	省 令 科 目	本学開講該当科目
社会福祉主事任用資格	法学	法学
	心理学	心理学概論
	社会学	社会学概論
	社会福祉概論	社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)
	医学一般	医学一般
	栄養学	栄養学概論
	介護概論	介護概論Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)又は介護総論
	リハビリテーション論	リハビリテーション論
	看護学	看護学概論Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)
	社会福祉援助技術論	社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)
	社会福祉施設経営論	社会福祉施設経営論
	社会保障論	社会保障論
	公的扶助論	公的扶助論
	児童福祉論	児童福祉論
	老人福祉論	老人福祉論
	地域福祉論	地域福祉論
	社会福祉調査論	社会調査法Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)
	精神障害者保健福祉論	精神保健学
	教育学	教育の基礎理論※
公衆衛生学	衛生・公衆衛生学※	

## (運動栄養学科)

指導資格の種類	省 令 科 目	本学開講該当科目
社会福祉主事任用資格	法学	法学
	心理学	心理学概論
	社会学	社会学概論
	社会福祉概論	社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)
	栄養学	栄養学
	児童福祉論	児童福祉論
	地域福祉論	地域福祉論
	精神障害者保健福祉論	精神保健学
	教育学	教育の基礎理論※
	公衆衛生学	衛生・公衆衛生学※

## (スポーツ情報マスメディア学科)

指導資格の種類	省 令 科 目	本学開講該当科目
社会福祉主事任用資格	法学	法学
	心理学	心理学概論
	社会学	社会学概論
	社会福祉調査論	社会調査法Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)
	教育学	教育の基礎理論※
	公衆衛生学	衛生・公衆衛生学※

## (現代武道学科)

指導資格の種類	省 令 科 目	本学開講該当科目
社会福祉主事任用資格	法学	法学
	心理学	心理学概論
	社会学	社会学概論
	社会福祉調査論	社会調査法Ⅰ・Ⅱ(両方で1科目)
	教育学	教育の基礎理論※
	公衆衛生学	衛生・公衆衛生学※

## (子ども運動教育学科)

指導資格の種類	省 令 科 目	本学開講該当科目
社会福祉主事任用資格	法学	法学
	心理学	心理学概論
	社会学	社会学概論
	社会福祉概論	社会福祉
	児童福祉論	児童家庭福祉
	保育理論	保育原理

### 指定科目の読み替えについて

平成25年9月19日付け仙台大教第49号により照会した開講科目の社会福祉主事資格に係る指定科目に関する読み替えについては下記に示すとおりとする。(社援基発1126第1号平成25年11月26日・厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長(回答))

指 定 科 目	開 講 科 目	開 講 年 度
教育学	教育の基礎理論	平成26年度より開講科目とする
公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	平成26年度より開講科目とする

※「教育の基礎理論」及び「衛生・公衆衛生学」は2014年度以降の単位取得が対象となる。

※読み替え対象学科は、体育学科・健康福祉学科・運動栄養学科・スポーツ情報マスメディア学科・現代武道学科である。